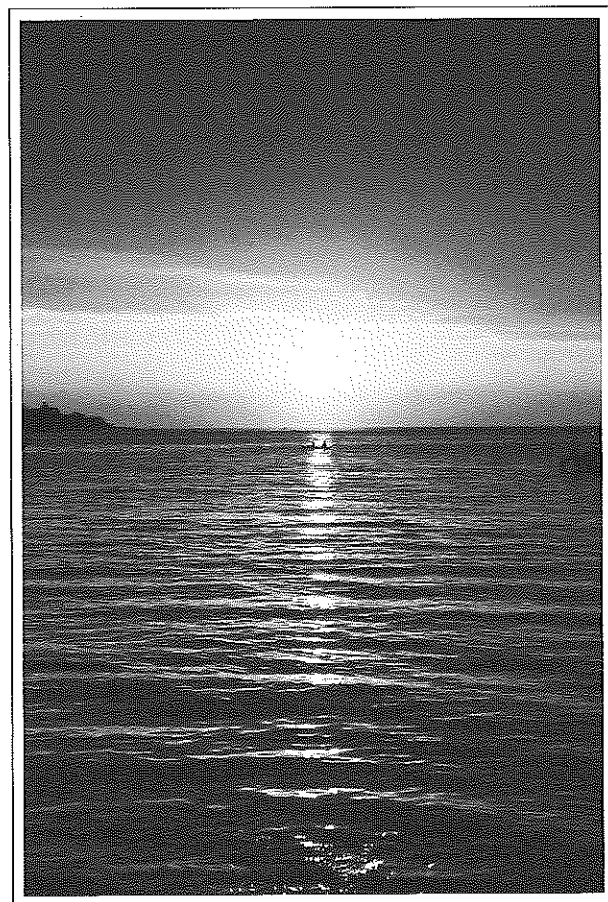




特集

大災害と文明の転換

山田のご縁は支援の動機になるか

— 神道文化が新たな絆を生み出す可能性

いたい まさなり

板井正斉

一、宗教と災害とのかかわりを市民活動から論じること（問題意識）

宗教と災害とのかかわりは、概観すると主に宗教者個人や教団の支援活動から論じられている印象を持つ。しかしながら、同テーマに広く社会との互恵性を含める時、もう一方で一般的市民活動から論じる必要はないだろうか。

筆者は、一九九五年の阪神大震災時、多感であやうい大学生として、慈善衝動にかられるままに現地支援へ赴いた。いわゆる「震災チルドレン」の一人として、それ以降も拙く災害ボランティアや市民活動にかかわってきた。

た。今回の三・一一でも自身の市民活動のネットワークから後方支援を中心に活動を継続し、短期間の現地支援も経験した。あくまでも市民活動セクターに身を置きながら、今回の宗教と災害をめぐる動向を考える時、阪神とは違う議論の場やあり方が魅力的に登場してきた。それでもこれまで体験的に感じてきた「違和感」というのか「ズレ」というのか、未だ言語化できない感覚も同時に持ち続けながらタイムラインを眺める自分がいた。恐らくは筆者の未熟さゆえの取るに足らない「感じ」なのだろう。

それでもこの「感じ」は、最近関心を寄せてきた宗教の社会貢献研究においても常に意識していたことと重なる。

すなわち、社会貢献する宗教の研究は、率直に言えば、しないよりした方が社会の有用性は高いという前提に立つ時、一時期のカルト問題等によって硬直した宗教と社会の關係性に、新たな問題提起を可能にした。それによってこれまで議論の中心になりにくかった様々な宗教者や宗教教団のいと小さき福祉的活動から組織的先駆的な社会活動の展開までを幅広く意味づけ、積極的に評価することへとつながっている。その中であらためて「宗教と社会の互恵性⁽¹⁾」を提示している点は見逃せない。つまり、宗教が貢献しようとする社会一般から見れば、宗教者や宗教教団の活動といっても、最も冷静には多様な活動主体の一つであり、それ以上でもなければそれ以下でもない。もちろん独自性を過小評価しては、ソーシャルキャピタルの醸成等期待もできなくなるが、ことさらに評価し過ぎることもまた、活動の受け手側から見た「適性値」を見誤ってしまう危険性を孕んでいる。

あくまでも「互恵性」の考え方に立つことで、その關係性の適性値を見出すことに研究意義をとらえると、宗教と災害をめぐる議論のメインストリームとはいえない

が、社会一般の活動からいわゆる宗教性をうかがうことも、議論のバランスをはかることに寄与できると考える。とりわけ神道の社会貢献や福祉ということを「環境因子」から考えてきた筆者にとって、他宗教の宗教者、宗教教団の活動と比べた際における議論の「ズレ」を、ある程度補正することにもつながるのではないかという期待もある⁽²⁾。

そこで本稿では、あえて被災地への宗教者や宗教教団の動きから論じること避けて、被災地から遠く隔たった三重県の市民活動団体が、岩手県山田町の支援を継続している事例を取り上げる。そこから支援動機に伊勢・宇治山田と岩手・山田という地域文化的・神道文化的なご縁が重要な意味を持ち始めている事実を考察する。なお本文中の傍線は筆者による。

二、山田町での被災・支援概況

(一) 山田町概要

岩手県下閉伊郡山田町は、岩手県沿岸中部に位置し、北に宮古市、南に大槌町と隣接する。面積は

二六三・四五㎢、人口は一九七〇年後半から八〇年代はじめにかけて約二万五〇〇〇人をピークとしてそれ以降は減少傾向をたどる。現在約一万七〇〇〇人（二〇一一年九月一日現在）である。主要産業は、リアス式海岸を利用した養殖を始めとする漁業が中心である。交通アクセスは、盛岡市から国道一〇六号線を車で約二時間半。三重県からは約一三〇〇キロあり、伊勢市内から車で約一四時間を要する。隣接する宮古市中心部とは車で三〇分以上の距離がある。

祭礼行事としては、山田八幡宮と大杉神社の神幸祭からなる山田祭が最も盛り上がる。「一日中海や通りを縦横無尽に駆け回る暴れ神輿が魅力の、三陸を代表する勇壮なまつり」と紹介され、震災前の二〇一〇年度は、九月一八日～二〇日にかけて山田の魅力発信実行委員会（山田町商工会内）により開催された⁽³⁾。八幡大神楽、山田大神楽、八幡鹿舞、関口剣舞、境田虎舞、八木節の六団体による郷土芸能が、奉納される。

(二) 被災状況

二〇一一年三月一日の東北地方太平洋沖地震で震度五弱（観測地点、八幡町地区）を記録した。その後の大津波によって町は壊滅状態となった。直後に立ち上げられた山田町災害対策本部の公表資料によると、三月一日死亡者数は、七二九人（うち認定死亡者数一九七人）。家屋倒壊数は、全壊が四五・七%にのぼり、町のほぼ半分の家屋が被災している⁽⁴⁾。

宗教者災害救援マップから山田町の被災状況を確認すると、被災情報について神社が四件。救援拠点情報について寺院が三件載っている⁽⁵⁾。

(三) 支援状況

山田町の支援状況をまとめると、仮設住宅は、二〇一一年一〇月現在、一九四〇戸が完成しており、六月より順次入居が始まっている。山田町災害ボランティアセンター（以下、山田町災害VC）は、山田町社会福祉協議会が県内外のボランティア団体、NPO、社会福祉協議会との協力関係により四月九日から設置運営されている。